

サーバ全体の設定

このドキュメントでは `core` サーバのディレクティブの中で、基本動作を設定するためのものを説明します。

トピック

サーバ ID.....	1
ファイルの位置.....	1
リソースの制限.....	1
URI References.....	2

サーバ ID

関連モジュール	関連ディレクティブ
	<code>ServerName</code>
	<code>ServerAdmin</code>
	<code>ServerSignature</code>
	<code>ServerTokens</code>
	<code>UseCanonicalName</code>

`ServerAdmin` ディレクティブと `ServerTokens` ディレクティブは、エラーメッセージなどのサーバが作るドキュメントに、どのようなサーバの情報を表示するかを制御します。`ServerTokens` ディレクティブは、Server HTTP レスポンスヘッダフィールドの値を設定します。

`ServerName` ディレクティブと `UseCanonicalName` ディレクティブは、サーバが自分自身を参照する URL を作る時に使われます。たとえば、クライアントがディレクトリを要求して、そのディレクトリ名の最後にスラッシュが付いていないような場合には、ドキュメントの相対的な参照を正しく解決できるようにするために、Apache は最後のスラッシュを含んだ完全なパスにクライアントをリダイレクトさせる必要があります。

ファイルの位置

関連モジュール	関連ディレクティブ
	<code>CoreDumpDirectory</code>
	<code>DocumentRoot</code>
	<code>ErrorLog</code>
	<code>LockFile</code>
	<code>PidFile</code>
	<code>ScoreBoardFile</code>
	<code>ServerRoot</code>

これらのディレクティブは Apache が適切な動作をするために必要な各種ファイルの位置を制御します。パスがスラッシュ (/) で始まっていないときは、ファイルは `ServerRoot` からの相対パスとして探されます。root 以外のユーザが書き込み可能なパスにファイルを置く場合は注意が必要です。詳細は「セキュリティ情報」¹ を参照してください。

リソースの制限

サーバ全体の設定

関連モジュール	関連ディレクティブ
	<code>LimitRequestBody</code>
	<code>LimitRequestFields</code>
	<code>LimitRequestFieldsize</code>
	<code>LimitRequestLine</code>
	<code>RLimitCPU</code>
	<code>RLimitMEM</code>
	<code>RLimitNPROC</code>
	<code>ThreadStackSize</code>

`LimitRequest*` ディレクティブは Apache がクライアントからのリクエスト読み込みで使うリソースを制限するために使われます。これらの値を制限することで、いくつかのサービス拒否攻撃は影響を和らげることができます。

`RLimit*` ディレクティブは、Apache の子プロセスから fork されたプロセスが使用するリソースを制限するために使われます。特に、これは CGI スクリプトと SSI exec コマンドで使われるリソースを制御します。

`ThreadStackSize` は Netware でのみ、スタックの大きさを制御するために使われます。

URI References

- [1] http://httpd.apache.org/docs-2.1/misc/security_tips.html#serverroot